

第4回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」のご報告

第4回万葉集を楽しむ会@花奈雅和が12月18日に開かれ、令和元年最後の講座を15名の参加者と締めくくることができました。



今回は「タケ（竹）」がテーマです。あまりに身近なので日本原産と思われがちですが中国原産のものがほとんどです。タケの花が咲くのは60年から120年周期で開花し一斉に枯渇するとされます。タケは建具、日用品、食材、生薬と様々な用途に使われ、一時期、エジソンがフィラメントとしても使ったことでも有名です。主なタケとして、マダケ（真竹）、モウソウチク（孟宗竹）、ハチク（淡竹）、メダケ（女竹）※、キッコウダケ（亀甲竹）などがあります。（※メダケはササです）



マダケ



モウソウチク



ハチク



メダケ



キッコウダケ

万葉集でタケは25首詠われています。まずは中^{なかとみの}臣^{やかもり}宅守の歌です。天平の悲恋と言われ、二人の恋の歌が万葉集巻15に63首（家守40首、狭野茅上娘子23首）載っています。

（原文）佐須太氣能 大宮人者 伊麻毛可母 比等奈夫理能 許能美多流良武

（訓読）さす竹の 大宮人は 今もかも ひとなぶりのみ 好みたるらむ

（意味）大宮人は昔も今も噂をして人をなぶりものにするのが好きであろうか

これは物忌みの時期の姦淫の罪により天平11年(739)に越前に流刑にされた宅守が京に残した妻を案じて詠った歌です。妻の狭野茅上娘子は次の歌を送っています。

帰りける人來たれりと 言ひしかば ほとほと死にき 君かと思ひて

15/3772

(流刑地から)帰ってくると人が言ったので、ほとんど死にそうになりました。あなたかと思つて。(「恋忘貝~万葉ことば巡り」P176[ほとほと])天平12年の恩赦の時に娘子が詠った歌ですが、その時、宅守は除外され、天平13年^{くにのみや}恭仁宮への遷都の恩赦で帰京した後の2人のその後は不明だそうです。

今回教えていただいた2首目のタケの歌は大伴家持の歌です。

(原文) 和我屋度能 伊佐佐村竹 布久風能 於等能可蘇氣伎 許能由布敝可母

(訓読) わが屋戸の いささ群竹吹く風の 音のかそけき このタベかも

(意味) わが家のわずかな群竹に吹いている風の音のかすかな、この夕暮れよ 19/4291

春の野に 霞たなびきうら悲し この夕影に鶯鳴くも

19/4290

春の野に霞が棚引き、なんとなく物悲しい。この夕暮れに鶯が鳴いていても。

うらうらに 照れる春日にひばり上がり 心悲しも独し思えば

19/4292

うららかに輝いている春の日に雲雀が飛び上がり、何となく悲しい思いにとらえられている。ひとりでの思いをしていると。

これら三首は「春愁三首」と呼ばれ、心の悲しさは歌によってのみはらうことができると大伴家持は述べています。「春愁三首」は幽玄優美な抒情詩の極致と言われ、人間の存在そのものの孤独を詠ったもので、万葉集と古今集をつなぐ歌と言われています。今回も唱和して調べを楽しみました。

さて、混乱してしまいがちな竹と笹ですがその違いを分かりやすく教えていただきました。

- ① 竹は成長につれ節の部分の鞘のような「皮」が落ちるが笹は「皮」が残る
- ② 竹は幹の節から2本の太い枝が出るが笹は節から細い枝が5~6本出るのが多い
- ③ 竹の葉脈は格子状だが笹は平行

今回の先生の着物は竹の葉模様の訪問着、羽織は四君子のうちの竹、菊、梅が入っています。帯は孟宗竹と真竹のデザイン、帯どめは竹の葉と竹づくしです。お菓子も竹炭をコーティングしたピーナッツをいただきました。



着物の柄(竹)



羽織



金が孟宗竹で銀がマダケ



帯留



竹炭ピーナツ

講座の後、続けて持ち寄り忘年会をいたしました。お手製の美味しいものもたくさんあって大いに盛り上がりました。粽を作ってくれた人がいたのですが、その皮がマダケの皮でした。この時に皆さんからいただいた感想の一部を紹介させていただきます。

●竹と笹の違いがはっきりわかってよかった。万葉仮名の読み方は誰が決めるのかとの質問（先生より平安時代にカタカナをつけてあるのがあるが、後年の学者が類推したので、すべてが正しいかはわからないとのこと）●「君が行く道の長手を繰り畳ね 焼き滅ぼさむ天の火もがも」の歌は学生時代に知っていてかっこいいと思っていたが、歌の背景は知らなかった。再会した後、きっと女性は振られたと思う。重すぎる！●万葉集と古今和歌集の橋渡しと言われる春愁三首に感動した●孟宗竹が江戸時代の中期に入ってきたということを知らなくて驚いた。激しい歌に森進一の身を焦がす「北のホタル」の歌を連想した。●万葉集の歌を聴いてなぜか懐かしく思うのはそれだけ「万葉の時代」が今の時代に根付いているのかなと思った●地域によって教科書にとりあげられた万葉の歌が違っているのが面白い●この会のおかげで花に興味のある妻との会話が増え、旅の計画にも話が進み夫婦円満で感謝している●今と万葉の時代を比べると語彙の量や言葉が豊かだと感じた●離れ離れの恋人たちはどうやって歌をやりとりできたのかとの質問（先生から文書を送る人がいたので、可能だったとのこと）



先生



粽の皮（マダケの皮）



持ち寄りと買い物で忘年会



感想は忘年会で

第5回万葉集を楽しむ会@花奈雅和のお知らせ

開催日時： 2月19日（水） 10：00～12：00

場所： プララ杉田505号室（マンション棟） 参加費：1500円（テーマにちなんだお菓子付き）

◎参加申し込みは下記へお願いいたします。

杉本啓子：keni9@yahoo.ne.jp

令和元年12月26日 文責：三浦美智子・高木紀世子

~~~~~  
万葉集を楽しむ会@花奈雅和

講師 吾意在野游・高木紀世子

世話役： 水野裕子（代表世話役）、杉本啓子（名簿管理）、三浦美智子（書記）  
多比良恵子（会計）

~~~~~  
追加情報

2月19日にご都合の悪い方は下記に参加できます。参加ご希望の方は直接講師にご連絡
ください。会費は同じ1500円です。 paksara3t@r7.dion.ne.jp

令和2年 1月28日（火） 10:00~12:00

2月 2日（日） 10:00~12:00

2月12日（水） 10:00~12:00

2月26日（水） 19:00~20:30
